

# Bénard 対流問題

@mat\_der\_D

2018 年 7 月 16 日

## 1 基礎方程式

基礎方程式は, Boussinesq モデルを用いる:

$$\frac{\partial \mathbf{u}}{\partial t} + (\mathbf{u} \cdot \nabla) \mathbf{u} = -\nabla p + Pr Ra T \mathbf{k} + Pr \nabla^2 \mathbf{u}, \quad (1)$$

$$\nabla \cdot \mathbf{u} = 0, \quad (2)$$

$$\frac{\partial T}{\partial t} + (\mathbf{u} \cdot \nabla) T = \nabla^2 T. \quad (3)$$

ここで  $\mathbf{u} = (u, v, w)$  は (無次元) 速度場,  $T$  は (無次元) 温度場<sup>\*1</sup>,  $p$  は (無次元) 圧力場であり,  $\mathbf{k}$  は  $z$  方向の単位ベクトルである. 無次元化に用いた長さスケールを  $L$ , 時間スケールを  $\tau$ , 速度スケールを  $U$ , 温度スケールを  $\Theta$  とする. これらのスケールの間には

$$\tau = \frac{L^2}{\kappa}, \quad U = \frac{L}{\tau} = \frac{\kappa}{L}$$

が成り立つ. ただし  $\kappa$  は温度拡散率である. また無次元パラメーターである Prandtl 数  $Pr$ , Rayleigh 数  $Ra$  は

$$Pr = \frac{\nu}{\kappa}, \quad Ra = \frac{\alpha g \Theta L^3}{\kappa \nu}$$

で定義する.

二次元の場合 (全ての変数が  $y$  に依存せず,  $v \equiv 0$  の場合) について考える. このときは変数はすべて  $x, z$  の関数であり,  $\mathbf{u} = (u, w)$ ,  $\nabla = (\frac{\partial}{\partial x}, \frac{\partial}{\partial z})$  と解釈することとする. 流れ関数  $\psi(x, z)$  を

$$u = \frac{\partial \psi}{\partial z}, \quad w = -\frac{\partial \psi}{\partial x}$$

---

<sup>\*1</sup> 正確にはある基準温度からの温度差 (を無次元化したもの). 方程式は一見温度の基準の取り方によって変わるように見えるが, 基準の取り換えによる項は圧力項に吸収できるため, そのような心配はない.

と導入することで、基礎方程式は次のように変形される<sup>\*2</sup>:

$$\frac{\partial \omega}{\partial t} + J(\psi, \omega) = -PrRa \frac{\partial T}{\partial x} + Pr \nabla^2 \omega, \quad (4)$$

$$\frac{\partial T}{\partial t} + J(\psi, T) = \nabla^2 T. \quad (5)$$

ここで  $\omega = -\nabla^2 \psi$  は  $y$  方向の渦度である。また  $a(x, z), b(x, z)$  に対して

$$J(a, b) = \frac{\partial a}{\partial z} \frac{\partial b}{\partial x} - \frac{\partial a}{\partial x} \frac{\partial b}{\partial z} \quad (6)$$

と定義する。

## 2 境界条件

速度の境界条件は 2 種類考える。

(1) 運動学的条件 + 粘着条件

$$u = v = w = 0 \quad (\text{at } z = \text{境界}) \quad (7)$$

2 次元の場合、流れ関数を用いて書き換えると

$$\psi = \frac{\partial \psi}{\partial z} = 0 \quad (\text{at } z = \text{境界}) \quad (8)$$

となる<sup>\*3</sup>。

(2) 運動学的条件 + (水平) 応力なし条件

$$\frac{\partial u}{\partial z} = \frac{\partial v}{\partial z} = w = 0 \quad (\text{at } z = \text{境界}) \quad (9)$$

2 次元の場合、流れ関数を用いて書き換えると

$$\psi = \frac{\partial^2 \psi}{\partial z^2} = 0 \quad (\text{at } z = \text{境界}) \quad (10)$$

となる<sup>\*3</sup>。

温度の境界条件は

$$T = T_L \quad (\text{at } z = \text{下の境界}), \quad T = T_U \quad (\text{at } z = \text{上の境界}) \quad (11)$$

とする。ただし  $T_L > T_U$ 。

---

<sup>\*2</sup> 非圧縮条件  $\nabla \cdot \mathbf{u} = 0$  は流れ関数を導入した時点で自動的に満足する。

<sup>\*3</sup> 厳密には、ここで水平方向の平均流量が常に 0 となる条件を課している。

ここで無次元化に用いた長さスケール  $L$  を上下境界の間の距離とし, 温度スケール  $\Theta$  を  $T_L - T_U$  と定めれば, 境界を  $z = 0, 1$  とでき, また温度に関する境界条件を  $T(z = 0) = 1, T(z = 1) = 0$  とできる.